

平成 22 年度 第 1 回甲斐市立竜王東小学校  
学校関係者評価委員会 評価書

会議日時 平成 22 年 7 月 22 日 (木) 午後 3 時～ 4 時

会議場所 図書室

出席者

○学校関係者評価委員 (6名)

齊藤 知磨 (学校評議員[富竹新田 1 区自治会長])

川名 輝雄 (学校評議員[富竹新田 3 区自治会長])

落合 利貞 (学校評議員[富竹新田 4 区自治会長])

宮原 洋一 (学校評議員[富竹新田 2 区民生児童委員])

齊藤 一己 (PTA 会長)

佐藤 祐三 (PTA 副会長)

○学校 (4名)

久保田 尊文 (校長)

奥山 賢一 (教頭)

中山 素 (教務副主任)

守木よし美 (生徒指導主任)

\*千野 広一 (教務主任) は欠席。

○欠席者 (2名)

岩波 明美 (学校評議員[PTA 関係者: 元名取区副支部長])

高鳥 隆子 (PTA 副会長)

進行: 中山 素 (教務副主任)

1 始めの言葉 奥山 賢一 (教頭)

2 あいさつ 久保田 尊文 (校長)

3 協議 議長: 齊藤 一己 (PTA 会長)

(1) 学校より第 1 回学校評価結果の説明 奥山 賢一 (教頭)

<説明資料>平成 22 年度第 1 回自己評価シート集計結果表

甲斐市立竜王東小学校 自己評価書 (前期)

<説明内容>

平成 18 年度から本評価事業のモデル校として実施して、今年で 5 年目。

質問内容も若干変更等があり、児童生徒用アンケートにおいては、今年度からの

ものもある。

また、昨年度、当会において指摘された、過年度データとの比較による分析等も実施するため、平成20年度から3年間の経年比較としてグラフ表記した。

アンケートは、6月に実施され、評価は、「A：そう思う」、「B：ややそう思う」、「C：ややそう思わない」、「D：そう思わない」の4段階で評価を行い、その結果、次のような特徴がみられた。

教職員による学校の自己評価においては、44項目中41項目が90%（A+B）以上に評価され、その内19項目が100%に高く評価されていることから、ほぼ安定的な学校経営状態であると判断できるとの説明。

また、児童生徒用アンケートにおいては、90%以上の肯定的評価項目が23項目中14項目にみられる一方、70%前後という項目も中にはみられた。

その結果、新しい学年で1学期がスタートし、3か月余りという短期間であるとともに不慣れな環境下であることから、全ての項目において高率な結果とはならないが、徐々に学習活動や学校生活に適応してきており、ほぼ安定的な状態であると考えられる。

さらに、3年間の経年比較では、同時期において安定した状況の中で、本年度は向上している項目がいくつか伺えるとの説明があった。

## （2）意見交換

### ①学習指導・生徒指導における教職員の取り組みや児童の状況、保護者の思い

守木よし美（生徒指導主任）

#### 〈説明内容〉

現在、2年生以上を対象に、月曜日の朝「はげみ学習」を実施している。

比較的、難しい問題にチャレンジすることとしており、個人で解決できないものはグループで取り組むようにしている。

また、コミュニケーションを図ることや主体性を持てるよう、月の目標を定め取り組んでいるとともに、スキルアップの一環として、上級生が下級生たちの面倒をみる縦割り活動を通じ、職員室への入退室や電話の対応など、社会人としての常識、礼儀作法など下級生の良いお手本、模範、マニュアルなどを上級生が示すことができるようになっている。

開校時から実践しているノーチャイムも、ルールを守ることの大切さに繋がっている。

### ②教職員・保護者・地域との連携、学校の特徴について

- ・平成16年度から実施されたアンケート結果と見比べてみても、以前に比べここ数年、数字上はよい傾向がみられる一方、なかなか向上しない事項もあるので、原

困等をしっかり調査してもらいたい。

- ・ 過日、市職員達と現場で作業を行っていたら、元気に「こんにちは」と挨拶をしてくれた児童がいて、一同、気持ちよい思いをした。

昨今は、凶悪犯罪等により見知らぬ人に声をかけたり、かけられたりすることがないように注意を促すこともあるが、そのような中、本当に感心した。挨拶運動を継続的に実施している成果であり、学校教育目標に即した教育が実践されている。

- ・ 子どもたちも挨拶をしようと心がけているようだが、ちょっとしたタイミングのずれで機会をのがしてしまい口籠ることもあるので、アンケート結果だけに拘らなくても良いのではないか。
- ・ 富竹新田3区は、細く狭い道が多く危険。特に、夏休み中、子供が外で遊ぶ機会が多く飛び出しが目立つので指導が必要。

- ・ 「学校応援団」の指定校・募集方法について：

現在、市内4校が指定されている。募集は、年2回程実施している。

竜王東小学校は、指定され2年目だが、従前より学校行事等へのボランティアなど地域の方たちとの連携については、他校に見られない好結果がある。

体力テストなどの学校行事においても、ボランティアの方々が積極的に参加しており、サポートしてくれる。書道やクラブ活動など専門的な分野においても、惜しみなく指導していただき子どもたちは恵まれている。

また、日頃、学校の校庭をグランドゴルフで使用している団体からも、夏休み中に行われる親子早朝作業に併せ、作業が困難な箇所に係る除草等を実施してもらえる報告もあった。

- ・ 甲斐市が掲げる創甲斐教育への取り組みの一つとして挙げられる、電子黒板の活用について：

操作方法やアプリケーションなどの特性を理解すると、幅広い教育指導が実践できる。子どもたちにも興味を持たせる授業が実現できるので、夏休みなどを利用し研修を開催する予定。

- ・ 防犯パトロールについて：

PTA 役員や地域、各支部などで実施している。

- ・ 学校施設等へのいたずらや器物破損などはないか：

以前は、夜間、弁当の食い散らかしなどゴミが散乱するようなことがあったが、現在は目立った被害もない。

- ・ 総括的に、教職員及び現場において安定したきめ細やかな教育指導・環境の下、健全育成が推進されていることが窺がえた。

また、挨拶をはじめ多くの事項について、学校教育目標に即した成果が挙げられており、日頃からの教職員の教育・指導成果と併せ、従前から盛んであったボランティア活動や学校応援団に係る地域住民と子どもたちとの触れ合い、交流、サ

ポート等により相互の距離がより親密なものになっていることも要因と考えられる。改めて地域との連携の必要性・重要性を感じた。

4 連絡 なし

5 終わりの言葉 奥山 賢一（教頭）

## ■ 評価書

### （１）全体評価

アンケート結果及び自己評価書を考察する限り、PDCA サイクルによる教育活動が行われていることが確認でき、委員全員が学校の努力に対し、高い評価であった。

全体的において肯定的な評価が高いことで満足することなく、肯定的な回答ができなかった児童へのきめ細かい指導を充実させていくと同時に、学校長の学校経営方針に沿った学年の教育活動の計画、実施をさらに推進し、全項目で目標値である 100%に到達できるよう各項目における改善策の実施に努める必要がある。

また、教職員に係る過年度からの懸案事項、「職場の福利厚生や健康管理について」は、当校だけで解決できるものではないが、可能な限り具体的な改善策を検討し、全ての教職員に対し、働きやすい職場、健康への配慮がなされる職場づくりに取り組んでもらいたい。

### （２）学習指導・生徒指導について

学習指導に係る児童生徒用アンケートと教職員の自己評価を比較した場合、教職員の学びの意欲を喚起する授業は、子どもの理解力に影響する傾向が伺える。

このことから、指導の狙いを明確にし、それらが達成できているかを判断できる評価基準と評価方法をさらに研究し、授業に活用してもらいたい。

また、市が推進する創甲斐教育の一環として挙げられる教材教具の活用においては、電子黒板や地デジテレビを活用したデジタル教科書・教材など、そのアプリケーションを有効に操作・活用できるよう研修を実施してもらいたい。

生徒指導においては、規範意識の高揚に係る結果が、教職員の指導により、児童の規範意識が向上していると判断でき、特にここ 3 年間の経年比較においても、前年度より両結果とも向上していることが伺え、指導と成果が表裏一体となっていることが理解でき、今後もさらに向上できるよう努めてもらいたい。

### （３）地域との連携について

学校サイドにおいて、積極的に情報発信を行っていることがアンケート結果から伺える反面、その情報発信に係る業務量が教職員の負担とならぬよう配慮願う。

当校においては、従前から学校ボランティアにおける取り組みが地域全体で伺え、学

校・保護者・地域の三位一体の効果的な学習活動や生徒指導が実践されていると判断でき、その一例が積極的な挨拶と思われる。

今後もこの関係がバランスよく持続できるよう希望するとともに、さらに保護者の特技や地域の教育力を活かした教育活動等が実践できるよう、学校応援団制度を積極的に周知していくことが望ましく、地域全体で当校を「見守る」、「育てる」意識がより広がり定着することを希望する。

#### (4) 学校の特色について

開校以来のノーチャイム制は、子どもたちの主体性、責任感等に繋がり効果ある取り組みと判断できる。

また、「はげみ学習」における取り組みは、その目的や成果を教職員や子どもたちに理解・実感してもらうには時間を要すこともあると思うが、状況に応じたテーマの設定や取り組み内容を丁寧にチェックし、創意工夫しながら継続していくことが大切である。

#### (5) その他

アンケート開始以来の懸案となっている「朝ごはんを食べて登校していますか」については、確実に向上はしているものの100%ではない。

また、睡眠時間、読書時間と併せ、原因を検証する必要があるとともに、家庭内のコミュニケーションの一環として、保護者に対する意識向上を含めた取り組みとして、個別指導や関係集会、お便りなどをさらに積極的に実施・強化する必要があると考える。

さらに、本年度から本格実施となった甲斐市の「創甲斐教育推進大綱」の中で位置付ける「将来の夢や希望を持っていますか」については、90%の目標値を達成しているが、「あまり持っていない」、または「もっていない」と回答している子供も20名いることも深刻な問題である。

いつの時代も、夢や目標を持って生きていくことの大切さや、その必要性を子どもたちに教育する機会や指導が求められていることを、学校・家庭・地域は切実に受け止めていく必要がある。

以上、平成22年度 第1回甲斐市立竜王東小学校学校関係者評価委員会の報告である。各委員から多々提言された内容が、またこの報告書が、今後、児童の健全育成に繋がり活かされることを心から期待するものである。

報告書作成責任者 P T A会長 齊藤 一己